

京都市西京区「ふらっと・西京」第5回（2017年2月23日）開催後コメント

今瀬政司（京都経済短期大学准教授／NPO 法人市民活動情報センター代表理事）

◎テーマ「松尾学区の防災の取組について」について

- ・地域において、防災に対する意識の違いを克服して地域全体で取組みを活発にするにはどうするか、防災用品を完備するための費用をどうするかといった課題について、様々な意見が交わされました。災害はいつ起こるか分からない、起こるかどうかも分からないものです。日常のことではなく、非日常のことです。そのため、我々誰しもが、つい対策を怠りがちになるものです。一方、例えば、我々はいつ起こるか分からない病気やケガ、事故などへの対策として、いざという時のために役立つように、地道にお金を貯金したり、保険をかけていたりします。災害に遭遇して被災するというのを、病気やケガ、事故などと同じような感覚で、身近に感じ日常的に頭の片隅に置くようになれば、防災への意識が高まり、対策を講じるようになっていくものと思います。そのためにも、各地で起こっている災害の情報や防災に関わる情報を誰かが積極的に発信し続け、そうした情報に地域の人たちが触れる機会を増やすような地道な取組みが大切であると思います。

◎テーマ「若者がより参加できる取組みについて」について

- ・「若者がより参加できる取組みについて」というテーマ提案に対して、多種多様な角度から多くの意見が交わされました。どの意見も的を得て有意義なものであったと思います。このテーマ提案と議論は裏返せば、現在までの取組みでは高齢の参加者が中心になっているということを意味します。一方、地域づくりの取組みの中には、若者の参加者が中心になっているところもあります。そうした取組みの参加者たちの間では、真逆で「高齢者がより参加できる取組みについて」といった問題意識や議論が行われる場合があります。高齢者中心の取組みでは若者を求め、若者中心の取組みでは高齢者を求めて、すれ違っているのです。高齢者と若者が混じり合っただけで参加できる取組みは、これからの地域づくりでは非常に重要な課題です。その実現のためには、「若者に（高齢者に）いかに参加してもらおうか」も大事ですが、それとともに、「高齢者の（若者の）自分たちが若者たちの（高齢者たちの）取組みに参加しに出かける」という意識を持って、異なる世代の取組みに踏み込んでいってみると広がりが見られるように思います。

◎テーマ「西京区に来てもらうには」について

- ・「西京区に来てもらうには」ということで、様々なアイデアや大事な視点などの意見が交わされました。「西京区に来てもらう」対象はどんな人たちで、来てもらったらどんなことが起こるのか、どうして来てもらいたいのか、等々の捉え方によって、議論や取組みは異なってきます。そこで、現在の西京区の地域の実情がどのようなものであるか、丁寧に調べて、把握することが求められます。そして、その正確な実情の理解について、西京区の地域づくりに関わろうとする者たちが共有することが大事になります。そうした実情の理解共有を踏まえた上で、将来の地域の理想像（夢の姿）を思い描きながら、様々なアイデアを出し合っただけでなく、楽しく有意義に議論を深め、実際の取組みが進んでいくことを期待しています。

◎テーマ「ふらっと・西京をどうするか考えたい！」について

- ・「ふらっと・西京」のこれまでとこれからについて、様々な意見が交わされました。どの意見もすべてがその通りだと思われそうです。求める方向が違った意見どうしでも、大事な意見ばかりです。地域づくりで最も重要で最も難しいことは「続けること」です。そして、さらに大事なことは、取組みの「目的」（夢）を見失わずに、共有し続けられるようにすることです。「何のために「ふらっと・西京」を行うのか」、その問いを追いかけ続けることは欠かせない課題だと思います。行政主導・住民参加で取組み続けるのか、行政と住民が「協働」で取組みを行う方向を少しずつ模索し始めるのか、といった視点も今後は大事になってくるでしょう。「続けること」と「目的（夢）に向けてステップアップしていくこと」の両方を追い求めてチャレンジしていただくと良いと思います。